

見学会報告

静岡大学キャンパスミュージアム見学会

高山 達子



コロンビア調査チョウ類標本前で高橋先生の説明を聞く

1月22日、静岡大学キャンパスミュージアムの見学会が行われ、大人16名子供3名の19名が参加しました。

当日は、キャンパスミュージアム館長でNPOの理事である静大理学部の塚越先生（オストラコーダ・介形虫の研究者）が、職員の方々とともに、案内をして下さいました。キャンパスミュージアムは、昨年リニューアルが行われ、展示スペースを拡大したとのことでした。

故池谷先生（前NPO理事長）の貴重な蔵書（C.ライエルの地質学原理や、C.ダーウインの種の起源など）の展示が、まず目を引きまします。池谷先生の入手方法のエピソードの紹介もあり、興味深かったです。

続いて、1967年に実施された静大のコロンビア調査の際のチョウ類の標本について、高橋先生から説明が行われました。チョウ類の標本の奥には、植物やコケ類、キノコ類の標本、浜松花博の際に展示されていたバオバブの切株などが展示されています。

展示エリアの中央には、理学部の臨海実習（神奈川県三浦市にある東京大学三崎研究所で実施）での収集標本や、ほかの地域で集められた海洋生物の標本展示がありました。ガラス海綿（カイロウドウケツ）や、タコノマクラ（ウニ類）、さまざまな貝類、ミドリシヤミセンガイ（腕足類）など、多種にわたっています。ただ、種名がやや見づらいのが残念でした。

自然史関連の展示以外にも重要な展示として、



理学部の臨海実習などで収集された海洋生物標本の見学

1954年にビキニ環礁で被爆した第五福竜丸に関する展示があります。当時、理学部に所属されていた塩川先生による研究が紹介され、静大の放射化学（現・放射科学）研究施設の設定につながったと説明がありました。船体の錆など、当時の放射線量が測られた検体が瓶にいれられていました。

人文系の展示としては、県内で出土した考古資料の展示も興味深いものでした。中には子供の棺や、静大の建設時に出土した刀なども展示されています。また、インドネシアのガムラン（木琴やドラのような楽器）も展示されていて、実際に演奏することもできます。

大型スクリーンでは、ドローンを用いた空撮映像も紹介されていて、見応えがありました。

残りの時間で、塚越先生にオストラコーダを顕微鏡で見せて頂きました。地球上に10,000種以上の種がいるそうで、未記載種も多くあるそうです。実習室では、途上国の子供たちにも安価に顕微鏡観察ができるようにと、開発された紙製の顕微鏡（米国・スタンフォード大の先生制作、Foldscope）が紹介されました。

そして、クマムシの観察です。何年か前に人気になりましたが、実際に見るのは初めてです。人気があった理由が分かります。別種の白いクマムシもいます。乾燥して乾眠状態から起き出す姿も可愛らしかったです。

ミュージアム自体は広くはないですが、多岐にわたる展示内容で、丁寧に説明をしていただきながらの見学はとても充実して楽しい時間でした。